

SDGs 実践例紹介コーナー

「愛知県 SDGs 登録制度」をご存知ですか。愛知県が SDGs の達成に向けて取り組む企業・団体等を登録し、企業の取組を「見える化」することで、SDGs に関する具体的な取組を普及させることを目的とした制度です。登録企業は愛知県ホームページで取組事例を紹介されるほか、登録者相互のマッチングの機会や登録証が与えられます。

※今回は、本制度活用を目標として、全従業員を対象とした社内 SDGs ワークショップを開いた企業の紹介です。

今号の SDGs 実践例紹介：株式会社竹藤商店



きっかけ

これまでの取り組みと一線を画すものとして「経済的な規模・目標」が明記されたことが SDGs に取り組む大きなターニングポイントでした。私（秦野社長）自身、社業とは別に、こまき市民活動ネットワークの代表理事を務めているのですが、その活動を通じて多くの社会問題やボランティア活動を見てきました。そうした活動により一層の付加価値が求められたことで、さらに深く取り組まなければならないと思い、事業に落とし込む方法を模索し始めました。



2つの秘訣

1 ワークショップに参加し理解を深めるべし

(SDGsの概略をつかむ)

2 SDGs の内容を理解することに時間をかけるべし

(17のゴールを整理し自分たちの事業とつなげたマップを作成)



結果

ワークショップを通じて「愛知県 SDGs 登録制度」があると知り、どういった内容で弊社は登録ができるか、全社員に検討してもらいました。内容によってできる・できないはありますが、それぞれの考え方を知れたことは大きな成果でした。また「一人も取りこぼさない」SDGs の考え方に沿い、全社員に検討してもらったので、働き方改革から新規事業まで多様なアイデアが生まれ、さらに対岸の火事ではなく、当事者意識も醸成されたように思います。

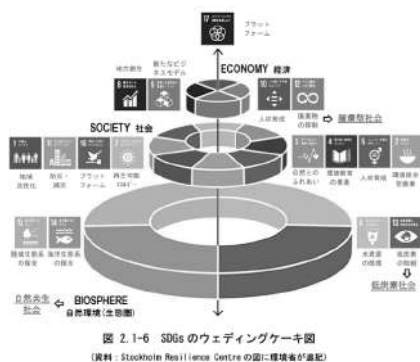
1 社員の考えを知る

2 経営者と従業員の目線の違いを知る

3 新事業アイデアの創出

4 自社の強みを再確認

5 利益につながる視点を持つ



SDGs の考え方の中に「ウェディングケーキモデル」というものがあります。その根底には「環境」があり、我々の事業も環境なくしては成り立たないということを痛感しました。そこで、基本に立ち返り、小牧の歴史的遺産でもある「石垣」、そして社名にもある「竹」に注目した事業を進めています。造園資材の卸売業を行う我々の強みは自然に負荷をかけず、馴染み、将来にわたって育まれる資材を提供し、未来の子供たちに自然とふれあう楽しさを伝えていくことであると再確認いたしました。



会社概要

株式会社 竹藤商店 大正元年（1912年）創業。以来社名をそのままに造園資材の卸売業を行う小牧有数の老舗企業。世界各地に仕入れ先を持ち、国内では著名な神社仏閣、歴史的建築物へ資材の納品を行う。4000坪の広大な敷地には2000トンを超える資材を常時取り揃え、国産品だけでなく、世界各地にスタッフを派遣し、お客様の様々なニーズにお応えできる体制づくりを心がけている。
 <問合せ先：株式会社 竹藤商店 TEL.0568-77-2321(代)> 代表取締役 秦野利基



竹藤商店の SDGs 活動は「社員の成長」が中心にあり、そこから出たアイデアが「会社の持続的発展」につながるという好循環に発展しそうです。

一般社団法人
 中小企業支援ナビ代表理事
 中小企業診断士



長谷川雅彦